



令和5年度 教育委員会 第2回定例会 議案

1 日 時 令和5年4月19日(水) 午後1時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 案

<非>第2号議案 静岡県立中央図書館協議会委員の任命 … 非

(3) 報告事項

(4) 閉 会

静岡県教育委員会

第2回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
報告 事項 1	令和3・4年度家庭教育実態調査報告	P 1
配付 報告 1	令和5年度入学者選考の結果の概要	P27

報告事項 1

令和 5 年 4 月 19 日

令和 3 ・ 4 年度 静岡県家庭教育実態調査報告

(社会教育課)

1 調査趣旨

家庭教育支援の効果的な方策について検討を進める上での参考とするため、家庭における子育てや教育の実態、保護者の意識やニーズ等の実態調査を実施

2 調査方法

調査対象となる園及び学校に調査依頼用紙を送付し、その園及び学校に通う子供の保護者に対し、インターネットによる回答（回答は任意）を依頼

調査時期	調査対象	回答数(調査対象)
令和 3 年 8 ～ 9 月	乳児・幼児の保護者	1,721 (4,486 人)
令和 4 年 7 ～ 8 月	小学校 3、4 年生の保護者	2,136 (15,321 人)
令和 4 年 9 ～ 10 月	中学校 1、2 年生の保護者	2,369 (20,085 人)

※対象の園及び学校は県内東・中・西部、賀茂（政令市含む）に偏りがないよう抽出

3 調査項目

(1) 小学校・中学校（令和 4 年度調査）

番号	設問内容	番号	設問内容
問 1	続柄	問 12	家族以外で子育てを相談できる人
問 2	年齢	問 13	これから子育てを相談したい相手
問 3	家族構成員	問 14	読書環境の整備
問 4	就業状況	問 15	ネットの使い方
問 5	地域とのつながり	問 16	ネットのリスクに関する学習希望
問 6	家庭教育で力を入れていること	問 17	GIGA スクール配布端末に関する悩み
問 7	自身の家庭教育に対する評価	問 18	家庭教育に関して学習したいテーマ
問 8	「ほめる」「しかる」どちらが苦手	問 19	期待する行政サービス等
問 9	「ほめる」ことに対する認識	問 20	コロナ禍による子育ての意識変化
問 10	「しかる」ことに対する認識	任意回答	県家庭教育支援事業の認知度
問 11	子育て中の不安や悩み		※灰色は新規設問

(2) 乳児・幼児（令和 3 年度調査）

番号	設問内容	番号	設問内容
問 1	続柄	問 12	「ほめる」ことに対する認識
問 2	年齢	問 13	「しかる」ことに対する認識
問 3	在住市町	問 14	子育て中の不安や悩み

問 4	子供の年齢	問 15	子育てを手助けしてくれる人
問 5	子供の人数	問 16	家族以外で子育てを相談できる人
問 6	家族構成	問 17	これから子育てを相談したい相手
問 7	国籍	問 18	家庭教育に関する情報の入手方法
問 8	地域とのつながり	問 19	家庭教育に関して学習したいテーマ
問 9	就業状況	問 20	期待する行政サービス等
問 10	家庭教育で力を入れていること	任意回答	県家庭教育支援事業の認知度
問 11	自身の家庭教育に対する評価	任意回答	子育て中のエピソード

□ 調査背景

(1) 家庭教育とは

家庭教育は、親や、これに準ずる人が子供に対して行う教育のことで、すべての教育の出発点であり、家庭は常に子供の心の拠り所となるものです。

家庭教育は、子供が基本的な生活習慣・生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につける上で重要な役割を担っています。

(2) 家庭教育支援の取組

近年、社会の急速な変化により家庭や地域の環境が変わっています。仕事で忙しい家庭や、悩みを抱え孤立しがちな家庭など、様々な課題を抱えた家庭があり、今までの家庭教育を進めることが困難な家庭が多くなっています。静岡県は、家庭教育支援条例を制定し、全ての保護者が安心して家庭教育が行えるよう、社会総がかりで家庭教育支援に取り組んでいます。

(3) 本県の主な取組

静岡県では平成23年度、24年度に実施した家庭教育実態調査の結果を受け、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、身近な地域において保護者に寄り添う支援活動をする家庭教育支援員を養成し、保護者が抱えている悩みや不安の深刻化を防ぐための保護者同士の交流を促す学習機会の提供や相談対応等の家庭教育支援活動を推進しています。

【具体的な取組内容】

- ・家庭教育支援員の養成、資質向上
- ・家庭教育支援教材の開発（家庭教育ワークシート「つながるシート」）
- ・保護者同士の関係づくりと学びの場としての交流会型家庭教育講座の開催
- ・市町における家庭教育支援チームづくり
- ・親学講座の推進（入学説明会等で、保護者が家庭教育について学ぶ機会として実施）
- ・官民連携家庭教育支援事業（企業内家庭教育講座の実施や家庭の日の設定を促進）
- ・家庭教育支援情報サイト「つながるネット」による情報発信

4 調査結果

Q 1. お子様との続柄を教えてください。

設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
母	1,568	91.1%	1,951	91.3%	2,165	91.4%
父	143	8.3%	180	8.5%	194	8.2%
その他	10	0.6%	5	0.2%	10	0.4%

Q 2. あなたの年齢について教えてください。

設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
45歳以上	131	7.6%	515	24.1%	1,247	52.6%
40～44歳	369	21.4%	790	37.0%	810	34.2%
35～39歳	616	35.8%	644	30.1%	258	10.9%
30～34歳	457	26.6%	171	8.0%	42	1.8%
25～29歳	122	7.1%	13	0.6%	1	0.0%
24歳以下	26	1.5%	3	0.1%	11	0.5%

Q 3. お子様にとっての家族（同居）の構成員をすべて選んでください。

設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
父	1,609	93.5%	1,988	93.1%	2,153	90.9%
母	1,716	99.7%	2,042	95.6%	2,271	95.5%
兄弟、姉妹	1,258	73.1%	1,728	80.9%	1,902	80.3%
祖父母	592	18.8%	398	18.6%	500	21.1%
その他			41	1.9%	36	1.5%

Q 4. あなたの就業状況はどのようなですか。

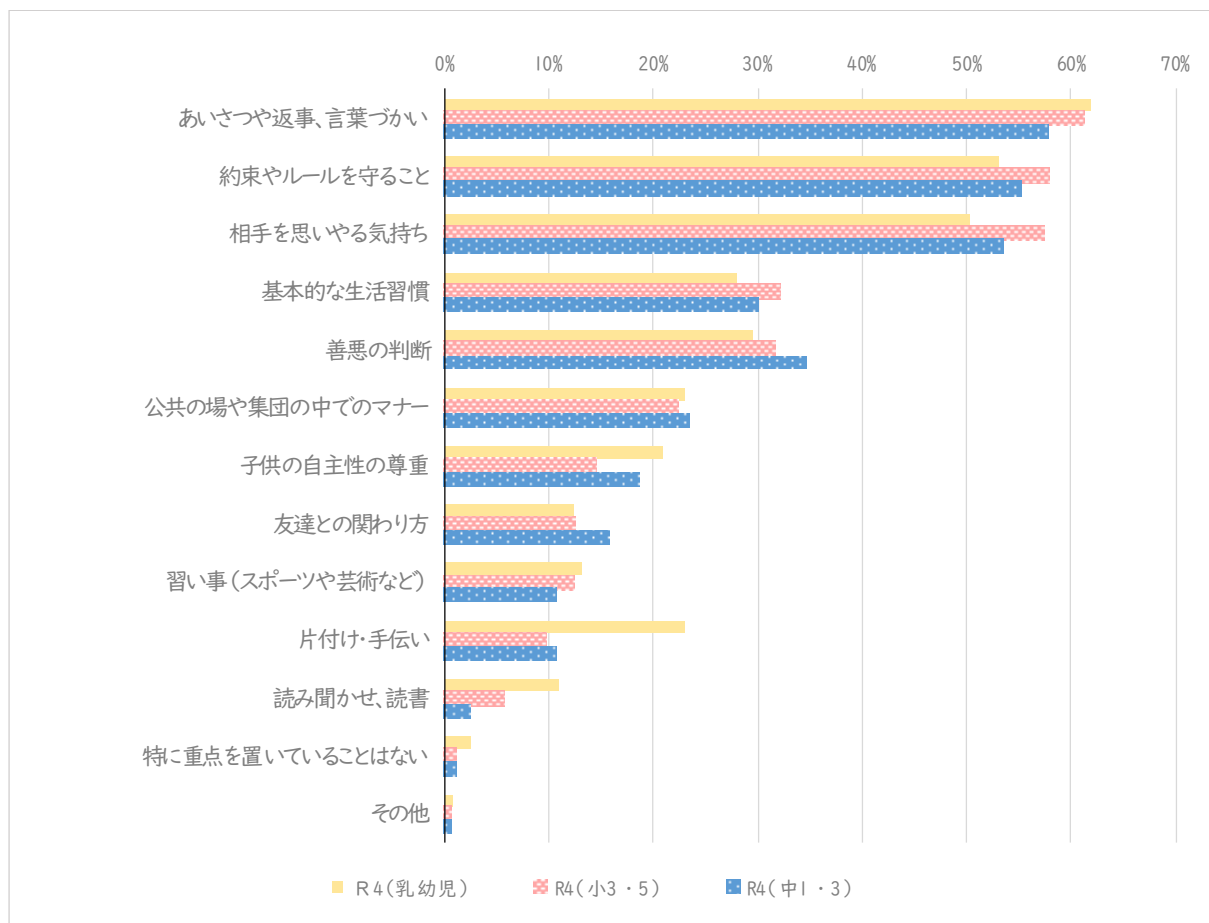
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
仕事をしていない	491	28.5%	437	20.5%	384	16.2%
仕事をしている	1230	71.5%	1,699	79.5%	1,985	83.8%

Q 5. あなたと地域の人たちのつながりについて、最も近いものを選んでください。

設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
強い方だと思う	713	41.5%	751	35.2%	879	37.1%
弱い方だと思う	1,008	58.5%	1,385	64.8%	1,490	62.9%

Q 6. お子様への家庭教育で、特に力を入れていることを3つまで選んでください。

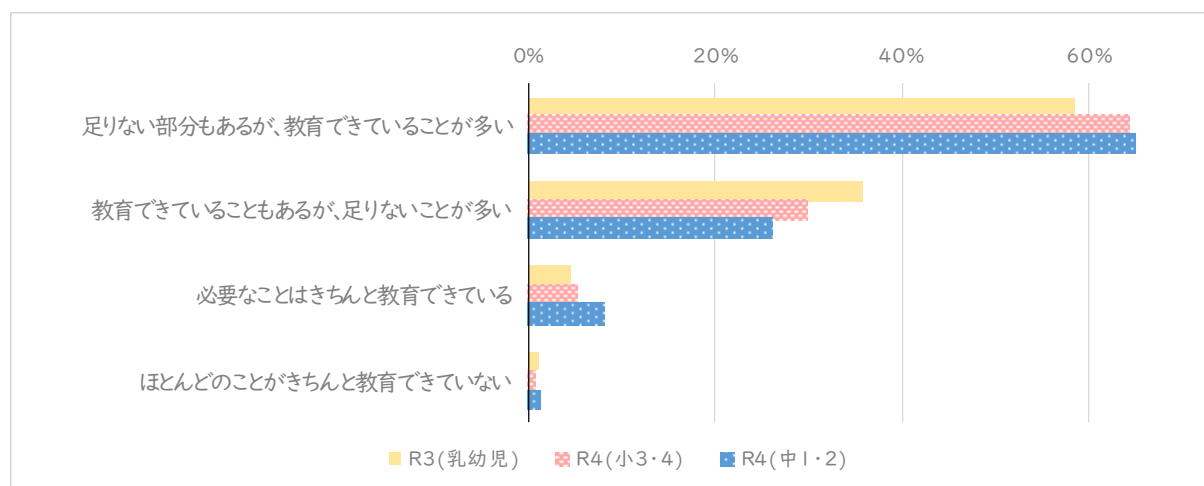
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
あいさつや返事、言葉づかい	1,066	61.9%	1,303	61.0%	1,367	57.7%
約束やルールを守ること	913	53.1%	1,234	57.8%	1,302	55.0%
相手を思いやる気持ち	868	50.4%	1,221	57.2%	1,266	53.4%
早寝早起き、食事などの基本的な生活習慣	481	27.9%	683	32.0%	709	29.9%
善悪の判断	508	29.5%	675	31.6%	818	34.5%
公共の場や集団の中でのマナー	397	23.1%	474	22.2%	553	23.3%
子供の自主性の尊重	360	20.9%	308	14.4%	435	18.4%
友達との関わり方	211	12.3%	267	12.5%	367	15.5%
習い事（スポーツや芸術など）	238	13.3%	262	12.3%	248	10.5%
片付け・手伝い	395	23.0%	207	9.7%	252	10.6%
読み聞かせ、読書	190	11.0%	119	5.6%	58	2.4%
特に重点を置いていることはない	44	2.6%	21	1.0%	26	1.1%
その他	14	0.8%	12	0.6%	17	0.7%



- ・家庭教育で特に力を入れていることは、どの層でも「あいさつや返事、言葉づかい」が一番多く、次いで、「約束やルールを守ること」「相手を思いやる気持ち」となっている。

Q7. お子様への家庭教育の状況について、どのように思っていますか。最も近いものを選んでください。

設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
足りない部分もあるが、教育できていることが多い	1,006	58.5%	1,371	64.2%	1,538	64.9%
教育できていることもあるが、足りないことが多い	616	35.8%	635	29.7%	615	26.0%
必要なことはきちんと教育できている	79	4.6%	114	5.3%	189	8.0%
ほとんどのことがきちんと教育できていない	20	1.2%	16	0.7%	27	1.1%



- ・一番回答が多かったのは「足りない部分もあるが教育できていることが多い」であった。
- ・「教育できている」に関する回答として、「必要なことはきちんと教育できている」と「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」とを合わせると6割を超えている。

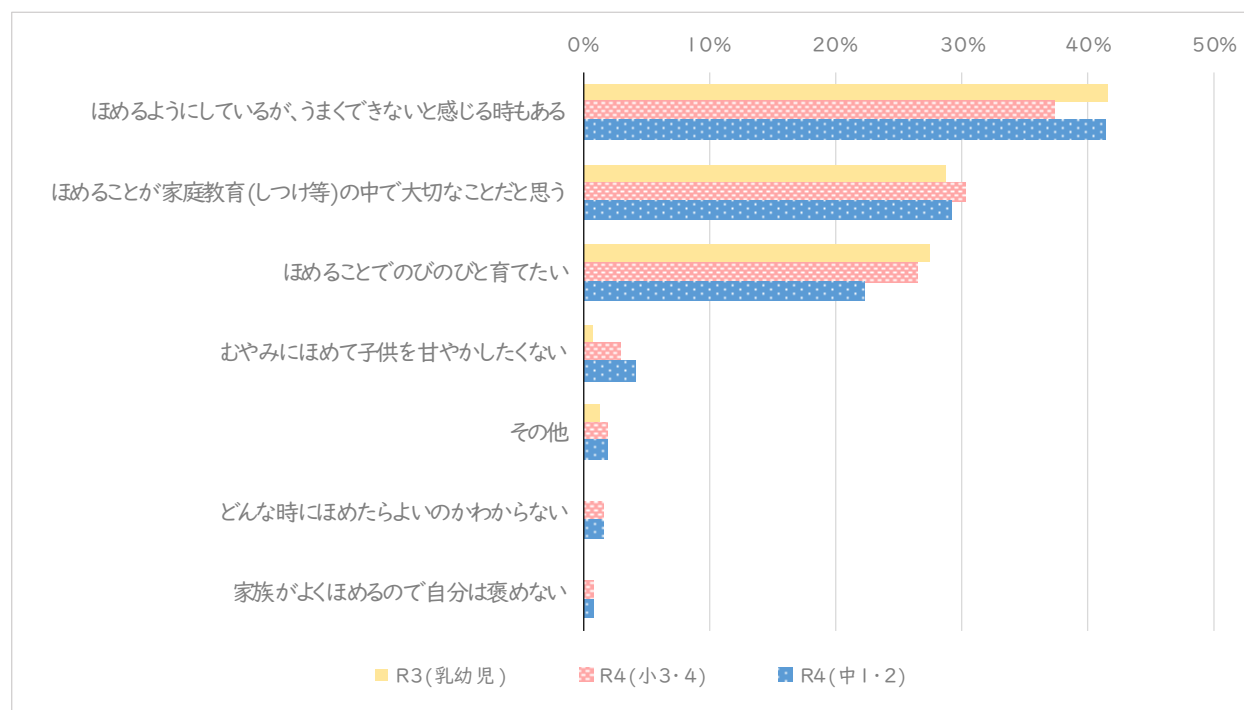
Q8. 子育ての中で、お子様を「ほめる」ことと「しかる」ことでは、どちらのほうがかうまくできていないと感じていますか。

設問項目	小学生の保護者		中学生の保護者	
	件数	割合	件数	割合
「しかる」ことのほうがうまくできていない	998	46.7%	1,010	42.6%
「ほめる」ことのほうがうまくできていない	1,138	53.3%	1,359	57.4%

- ・小学生、中学生の保護者とも、「しかる」ことより、「ほめる」ことがうまくできていないと感じる保護者の割合が高い。

Q9. お子様を「ほめる」ことについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。

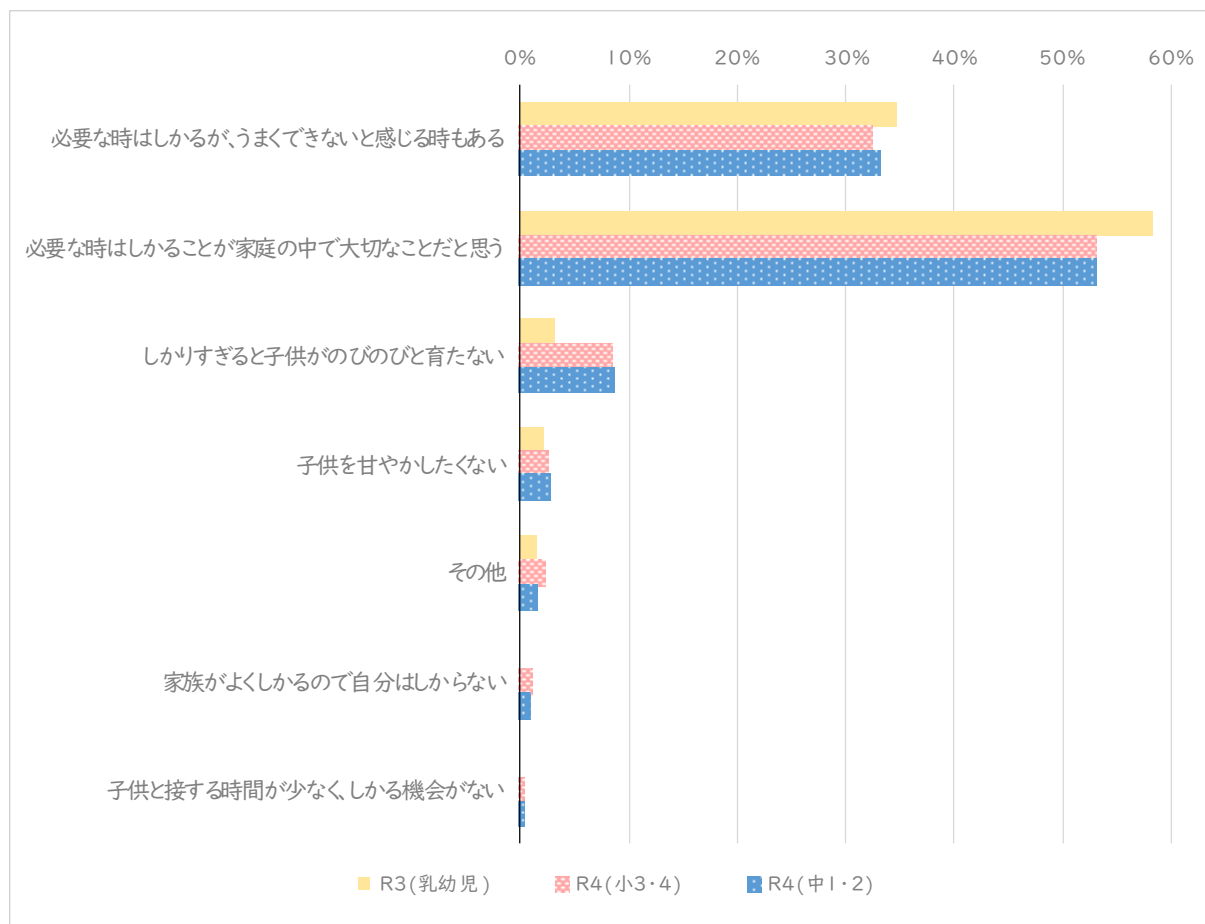
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
ほめるようにしているが、うまくできないと感じる時もある	714	41.6%	792	37.1%	976	41.2%
ほめることが家庭教育(しつけ等)の中で大切なことだと思う	493	28.7%	643	30.1%	686	29.0%
ほめることでのびのびと育てたい	472	27.5%	564	26.4%	525	22.2%
むやみにほめて子供を甘やかしたくない	16	0.9%	57	2.7%	95	4.0%
その他	23	1.3%	39	1.8%	41	1.7%
どんな時にほめたらよいかわからない			29	1.4%	32	1.4%
家族がよくほめるので自分は褒めない			12	0.6%	14	0.6%



- ・「ほめる」ことに関する保護者の思いとして、「ほめるようにしているが、うまくできないと感じるときもある」の回答が一番多かった。

Q10. お子様をしかることについてどのような思いを持っていますか。最も近いものを選んでください。

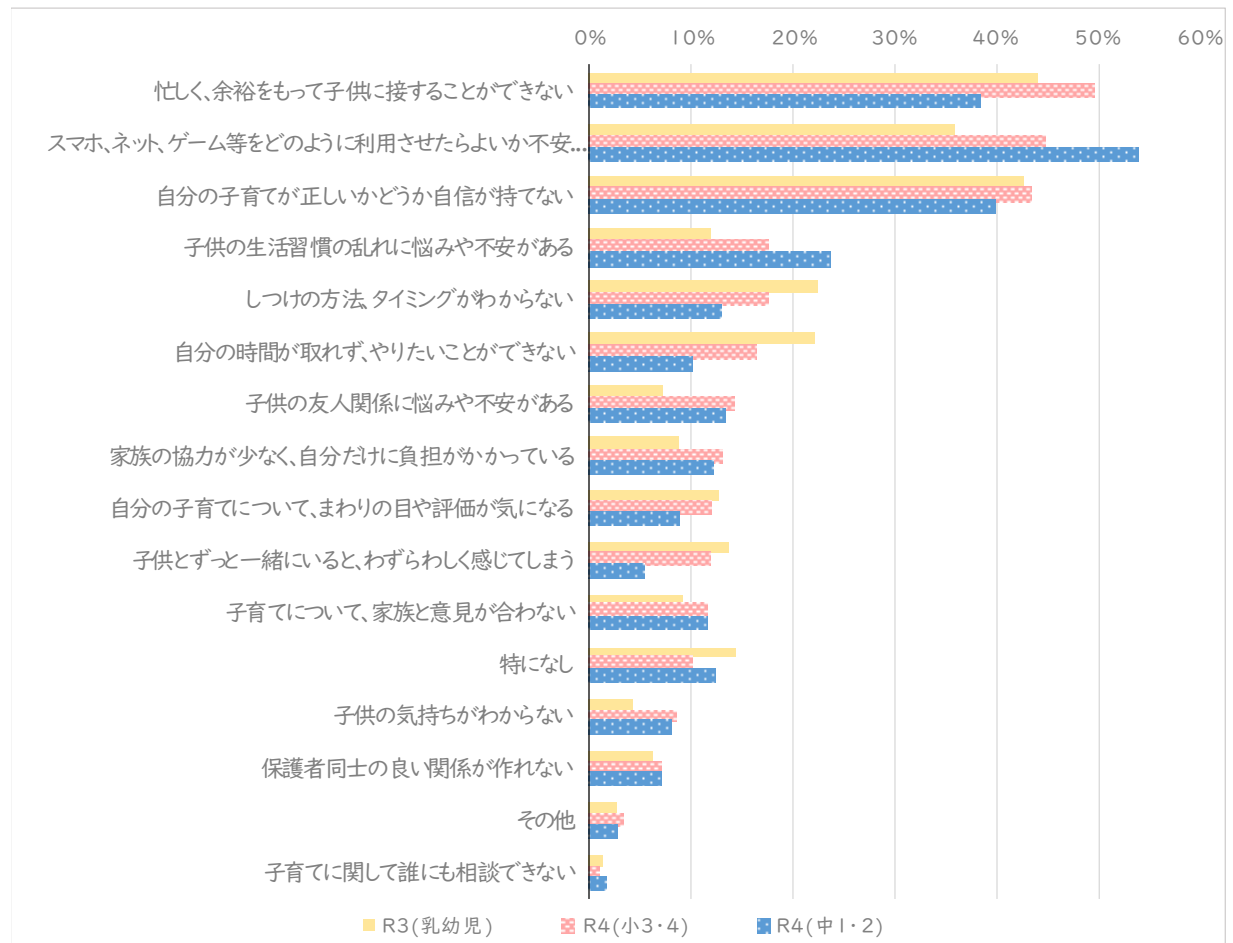
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
必要な時はしかるが、うまくできないと感じる時もある	595	34.7%	691	32.4%	784	33.1%
必要な時はしかることが家庭の中で大切なことだと思う	999	58.3%	1,135	53.1%	1,259	53.1%
しかりすぎると子供がのびのびと育たない	56	3.3%	179	8.4%	203	8.6%
子供を甘やかしたくない	38	2.2%	56	2.6%	63	2.7%
その他	26	1.5%	48	2.2%	33	1.4%
家族がよくしかるので自分はしからない			21	1.0%	21	0.9%
子供と接する時間が少なく、しかる機会がない			6	0.3%	6	0.3%



・「しかる」ことに関する保護者の思いとして、「必要なときは必要な時はしかることが家庭の中で大切なことだと思う」の回答が一番多かった。

Q11. 子育てをしていて、主にどのようなことに悩みや不安を感じますか。不安や悩みが大きいものを5つまで選んでください。

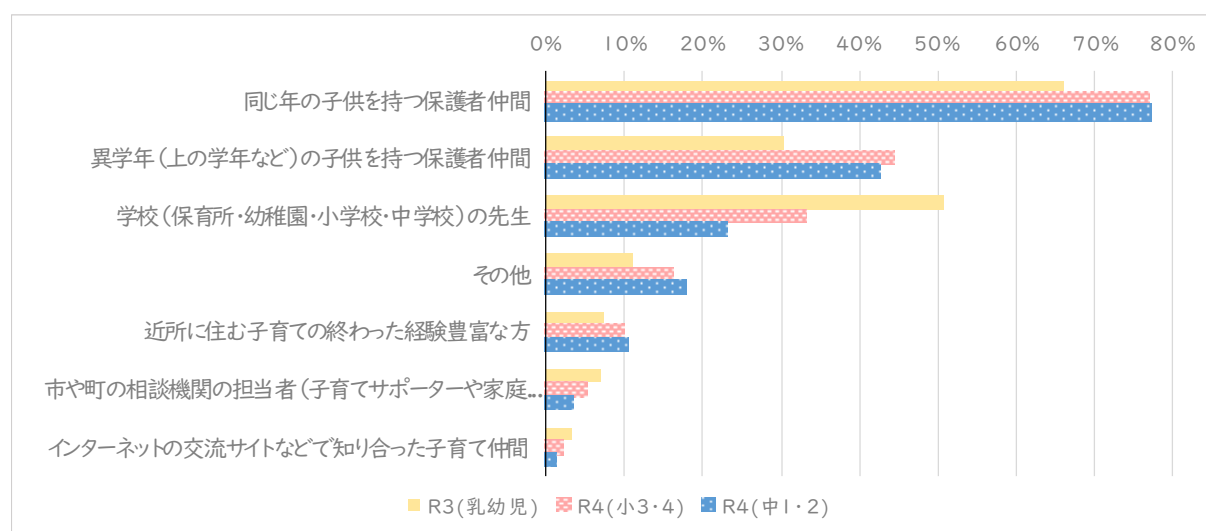
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
忙しく、余裕をもって子供に接することができない	758	44.0%	1,055	49.4%	907	38.3%
スマホ、ネット、ゲーム等をどのように利用させたらよいか不安である	619	36.0%	951	44.5%	1274	53.8%
自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない	734	42.6%	921	43.1%	938	39.6%
子供の生活習慣の乱れに悩みや不安がある	207	12.0%	374	17.5%	556	23.5%
しつけの方法、タイミングがわからない	386	22.4%	371	17.4%	302	12.7%
自分の時間が取れず、やりたいことができない	381	22.1%	341	16.0%	238	10.0%
子供の友人関係に悩みや不安がある	123	7.1%	300	14.0%	307	13.0%
家族の協力が少なく、自分だけに負担がかかっている	150	8.7%	273	12.8%	281	11.9%
自分の子育てについて、まわりの目や評価が気になる	219	12.7%	253	11.8%	202	8.5%
子供とずっと一緒にいると、わずらわしく感じてしまう	234	13.6%	245	11.5%	125	5.3%
子育てについて、家族と意見が合わない	157	9.1%	241	11.3%	267	11.3%
特になし	245	14.2%	211	9.9%	290	12.2%
子供の気持ちがわからない	74	4.3%	177	8.3%	184	7.8%
保護者同士の良い関係が作れない	109	6.3%	145	6.8%	162	6.8%
その他	47	2.7%	65	3.0%	59	2.5%
子育てに関して誰にも相談できない	23	1.3%	20	0.9%	33	1.4%



- ・子育てをしていて、不安や悩みが「特になし」と回答した保護者は、乳幼児の保護者 14.2%、小学生の保護者 9.9%、中学生の保護者 12.2%であった。
→ 約8割の保護者が子育てについて何かしら1つ以上の悩みを抱えている。
- ・「忙しく、余裕をもって子供に接することができない」は、小学生をもつ親が 49.4%と一番高くなっている。
→小学生の親は子どもと接することの必要性を特に感じていると感じていると考えられる。
- ・「スマホ、ネット、ゲーム等をどのように利用させたらよいか不安である」では、子供の年齢が高くなるにつれて割合が高くなっており、中学生の保護者では、半数以上の 53.8%となっている。
- ・子育て中の不安や悩みが大きいものとして、約4割の保護者が、「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」と回答している。

Q12. 子育てについて、家族以外で相談できる人はいますか。あてはまるものをすべて選んでください。

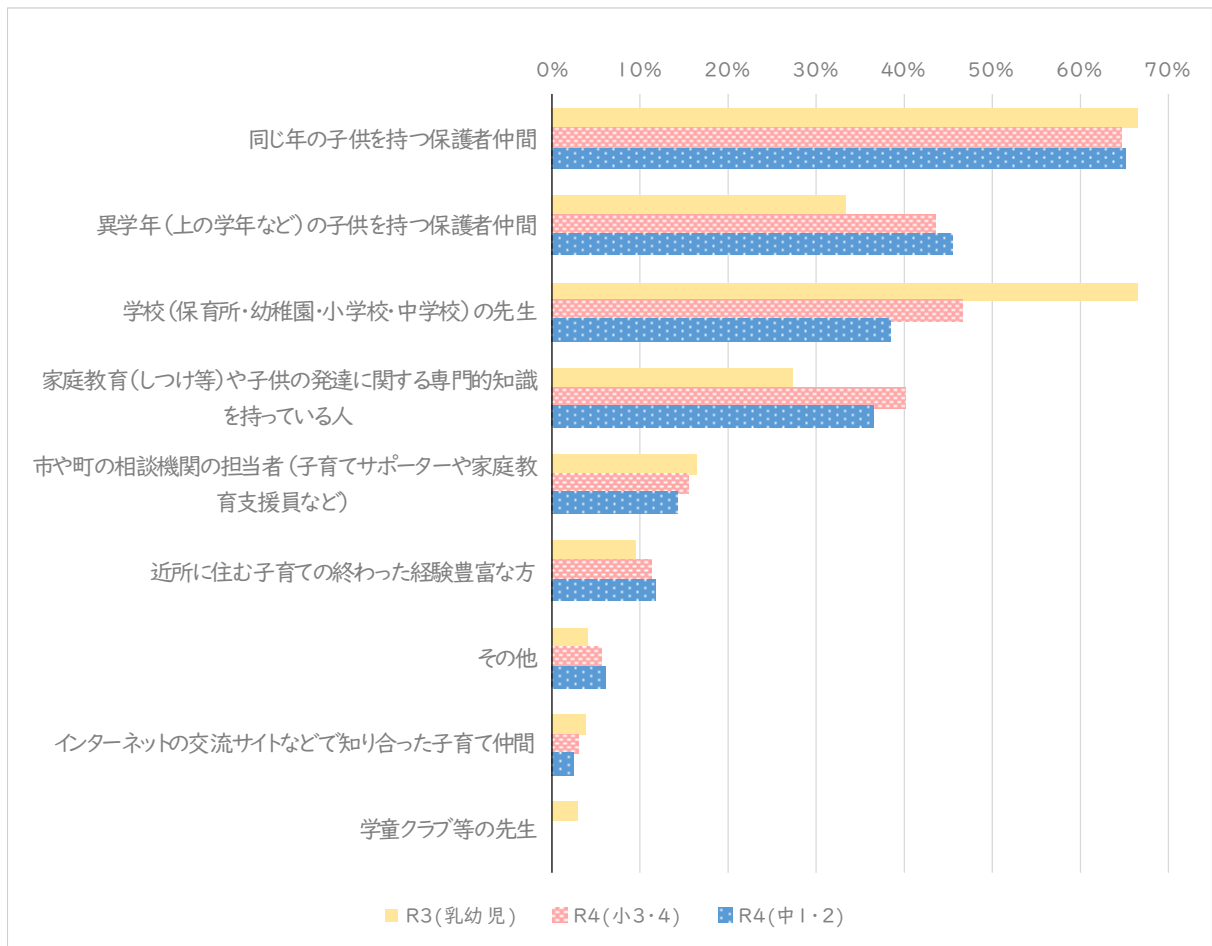
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
同じ年の子供を持つ保護者仲間	1,136	66.0%	1,639	76.7%	1,823	77.0%
異学年（上の学年など）の子供を持つ保護者仲間	524	30.4%	947	44.3%	1,009	42.6%
学校（保育所・幼稚園・小学校・中学校）の先生	876	50.9%	708	33.1%	538	22.7%
その他	191	11.1%	343	16.1%	415	17.5%
近所に住む子育ての終わった経験豊富な方	126	7.3%	212	9.9%	247	10.4%
市や町の相談機関の担当者（子育てサポーターや家庭教育支援員など）	118	6.9%	111	5.2%	76	3.2%
インターネットの交流サイトなどで知り合った子育て仲間	57	3.3%	43	2.0%	29	1.2%



- ・乳幼児の保護者では、家族以外の子育てに関する相談相手としては、「同じ年の子供を持つ保護者仲間」が最も多く、次いで「保育所、幼稚園の先生」となっている。
- ・小学生と中学生の保護者では、「同じ年の子供を持つ保護者仲間」が最も多く、次いで「異学年(上の学年など)の子供を持つ保護者仲間」となっている。

Q13. これから家族以外で子育てについて相談をするならどのような人がいいですか。3つまで選んでください。

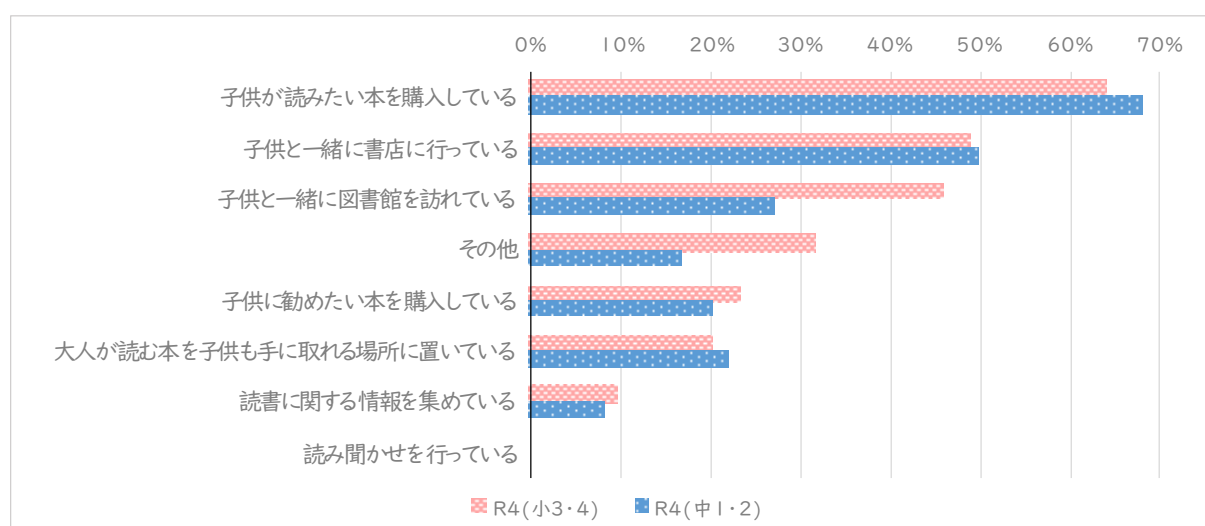
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
同じ年の子供を持つ保護者仲間	1,148	66.7%	1,379	64.6%	1540	65.0%
異学年（上の学年など）の子供を持つ保護者仲間	576	33.5%	926	43.4%	1071	45.2%
学校（保育所・幼稚園・小学校・中学校）の先生	1,148	66.7%	994	46.5%	910	38.4%
家庭教育（しつけ等）や子供の発達に関する専門的知識を持っている人	469	27.3%	856	40.1%	864	36.5%
市や町の相談機関の担当者（子育てサポーターや家庭教育支援員など）	281	16.3%	326	15.3%	329	13.9%
近所に住む子育ての終わった経験豊富な方	166	9.6%	239	11.2%	274	11.6%
その他	70	4.1%	117	5.5%	139	5.9%
インターネットの交流サイトなどで知り合った子育て仲間	65	3.8%	61	2.9%	51	2.2%
学童クラブ等の先生	59	3.1%				



- ・ 6割以上の保護者が、これから家族以外で子育てについて相談をしたい人に「同じ年の子供を持つ保護者仲間」をあげている。
- ・ 「市や町の相談機関の担当者(子育てサポーターや家庭教育支援員など)」に比べ「家庭教育や子供の発達に関する専門的知識を持っている人」の割合が高くなっている。
→ 家庭教育支援員が専門的知識を身に付けられることができるような講座等の開催を検討していく。

Q14. お子様の読書について、心がけていることはどんなことですか。あてはまるのをすべて選んでください。

設問項目	小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合
子供が読みたい本を購入している	1,365	63.9%	1605	67.8%
子供と一緒に書店に行っている	1,042	48.8%	1174	49.6%
子供と一緒に図書館を訪れている	974	45.6%	635	26.8%
その他	676	31.6%	389	16.4%
子供に勧めたい本を購入している	495	23.2%	469	19.8%
大人が読む本を子供も手に取れる場所に置いている	421	19.7%	514	21.7%
読書に関する情報を集めている	201	9.4%	186	7.9%
読み聞かせを行っている	0	0.0%	0	0.0%



- ・小学生、中学生の保護者とも「子供が読みたい本を購入している」が6割以上と一番多く、次いで「子供と一緒に書店に行っている」が5割近かった。
- ・小学生の保護者では「子供と一緒に図書館を訪れている」割合が中学生の保護者に比べ高くなっている。

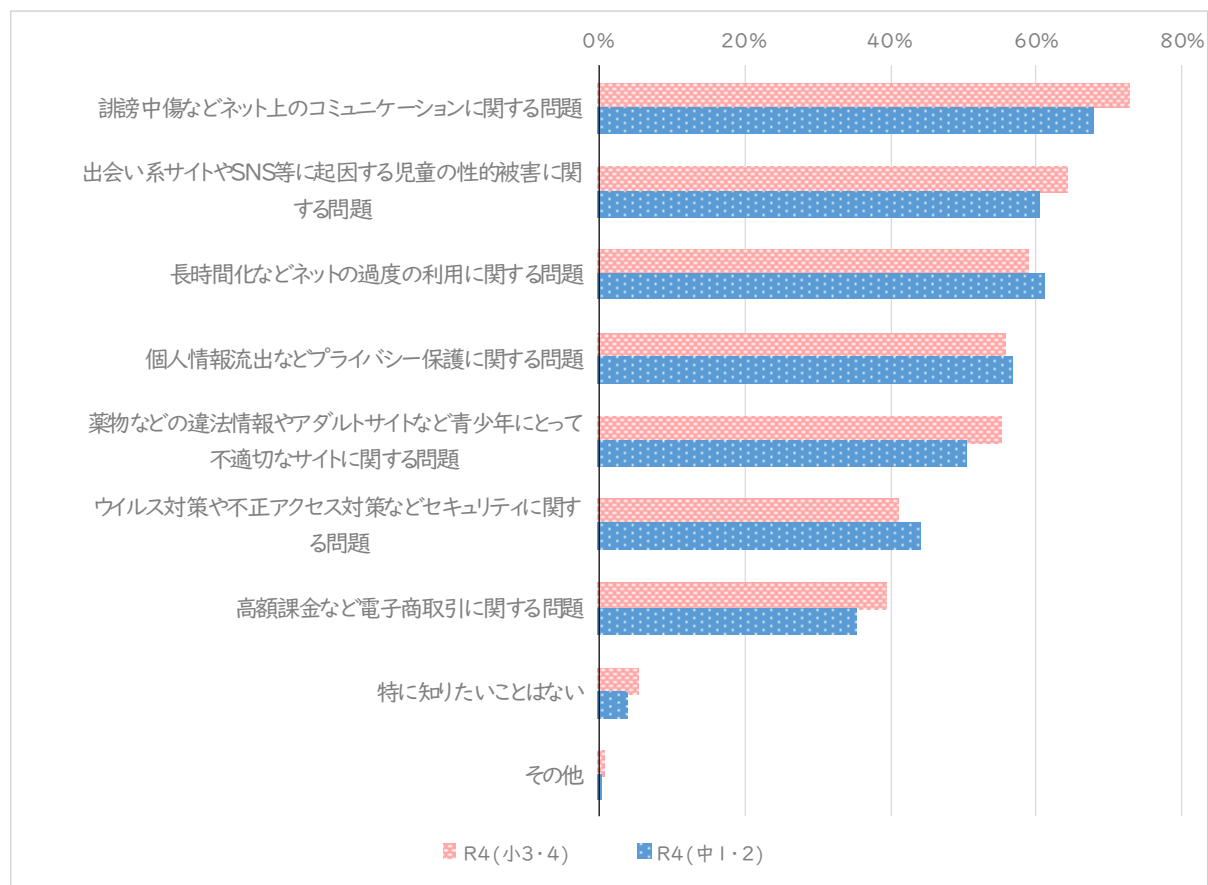
Q15. お子様とネットの安全な使い方に関して話し合いを行っていますか。

設問項目	小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合
話し合いをしたことがあり、使い方のルールを一緒に決めている	1,399	65.5%	1569	66.2%
話し合いをしたことがあるが、使い方のルールは決めていない	407	19.1%	585	24.7%
話し合いはしていない	275	12.9%	166	7.0%
その他	55	2.6%	49	2.1%

- ・ネットの安全な使い方に関するルールを決めている保護者は6割以上であった。
- ・ネットの安全な使い方に関し、子供と「話し合い」をしている保護者は8割以上であった。

Q16. ネットの危険性に関し、どのようなテーマが知りたいですか。あてはまるものをすべて選んでください。

設問項目	小学生の保護者		中学生の保護者	
	件数	割合	件数	割合
誹謗中傷などネット上のコミュニケーションに関する問題	1,546	72.4%	1600	67.5%
出会い系サイトやSNS等に起因する児童の性的被害に関する問題	1,366	64.0%	1426	60.2%
長時間化などネットの過度の利用に関する問題	1,248	58.4%	1442	60.9%
個人情報流出などプライバシー保護に関する問題	1,186	55.5%	1339	56.5%
薬物などの違法情報やアダルトサイトなど青少年にとって不適切なサイトに関する問題	1,175	55.0%	1191	50.3%
ウイルス対策や不正アクセス対策などセキュリティに関する問題	875	41.0%	1041	43.9%
高額課金など電子商取引に関する問題	842	39.4%	832	35.1%
特に知りたいことはない	111	5.2%	86	3.6%
その他	12	0.6%	8	0.3%

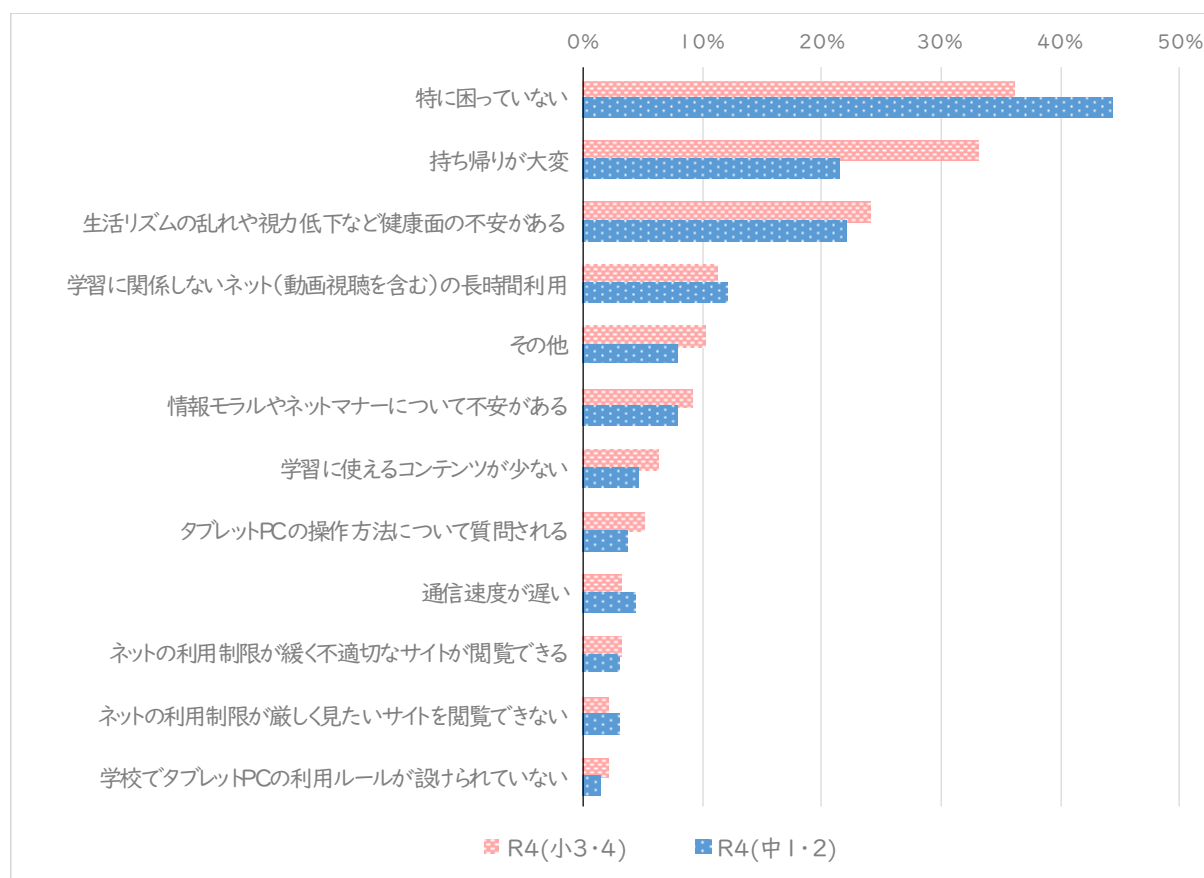


- ・保護者が学習を希望するテーマとして、「誹謗中傷などコミュニケーションに関する問題」の回答が一番多かった。
- ・「特に知りたいことはない」は小学生の保護者 5.2%、中学生の保護者 3.6%であった。

※内閣府の「令和3年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」では、保護者がインターネットの危険性に関して学習を希望するテーマとして一番多かった回答は「インターネット上のコミュニケーションに関する問題」であり、次いで「セキュリティに関する問題」「プライバシー保護に関する問題」「青少年にとって不適切なサイトに関する問題」「児童の性的虐待に関する問題」「インターネットの過度の利用に関する問題」「新しい機器やサービスに関する情報・危険性」「フィルタリングの必要性や有効性」「電子商取引に関する問題」「その他」「特に知りたいことはない」の順となっていた。

Q17. 普段、お子様が使っているタブレットPCについて、ご家庭で困っていることはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。本設問の「タブレットPC」は国のGIGAスクール構想により学校から貸与等されたパソコンを指します。

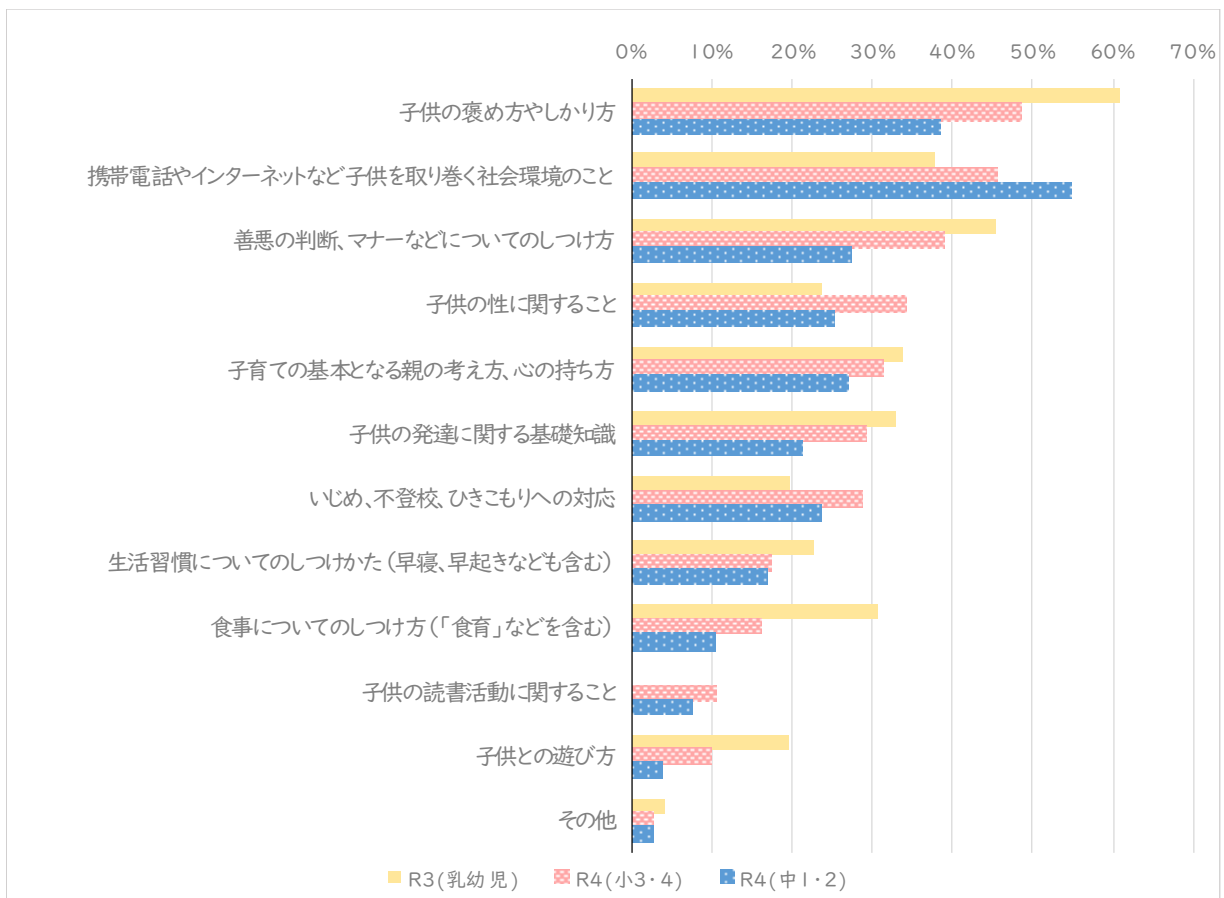
設問項目	小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合
特に困っていない	773	36%	1050	44.3%
持ち帰りが大変	712	33%	508	21.4%
生活リズムの乱れや視力低下など健康面の不安がある	502	24%	521	22.0%
学習に関係しないネット（動画視聴を含む）の長時間利用	234	11%	281	11.9%
その他	210	10%	183	7.7%
情報モラルやネットマナーについて不安がある	182	9%	182	7.7%
学習に使えるコンテンツが少ない	124	6%	108	4.6%
タブレットPCの操作方法について質問される	107	5%	85	3.6%
通信速度が遅い	67	3%	99	4.2%
ネットの利用制限が緩く不適切なサイトが閲覧できる	61	3%	69	2.9%
ネットの利用制限が厳しく見たいサイトを閲覧できない	46	2%	67	2.8%
学校でタブレットPCの利用ルールが設けられていない	37	2%	31	1.3%



- ・一番多かった回答は「特に困っていない」であった。
- ・困り感として一番多かった回答は「持ち帰りが大変」であり、次いで「生活リズムの乱れや視力低下など健康面の不安がある」「学習に関係しないネット(動画視聴を含む)の長時間利用」となっていた。

Q18. 家庭教育（しつけ等）について主にどのような情報を得たり、学習したりしたいですか。
 あてはまるものをすべて選んでください。

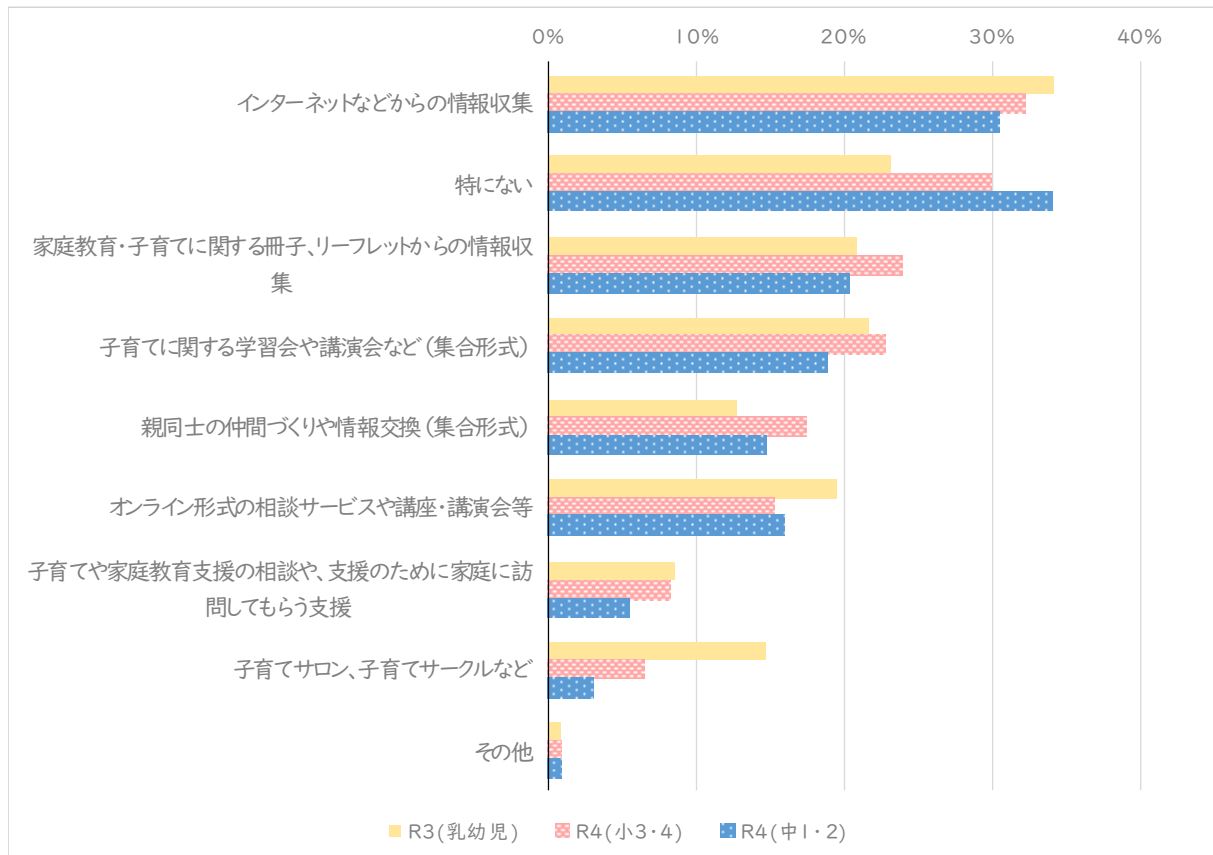
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
子供の褒め方やしかり方	1,047	60.8%	1,032	48.3%	910	38.4%
携帯電話やインターネットなど子供を取り巻く社会環境のこと	651	37.8%	967	45.3%	1295	54.7%
善悪の判断、マナーなどについてのしつけ方	782	45.4%	834	39.0%	645	27.2%
子供の性に関すること	409	23.8%	730	34.2%	597	25.2%
子育ての基本となる親の考え方、心の持ち方	581	33.8%	665	31.1%	641	27.1%
子供の発達に関する基礎知識	566	32.9%	626	29.3%	502	21.2%
いじめ、不登校、ひきこもりへの対応	340	19.8%	612	28.7%	558	23.6%
生活習慣についてのしつけかた（早寝、早起きなども含む）	392	22.8%	367	17.2%	398	16.8%
食事についてのしつけ方（「食育」などを含む）	530	30.8%	343	16.1%	242	10.2%
子供の読書活動に関すること			224	10.5%	170	7.2%
子供との遊び方	338	19.6%	212	9.9%	91	3.8%
その他	69	4.0%	53	2.5%	64	2.7%



- ・ 家庭教育について学習、または情報を得たりしたいこととして、乳幼児と小学生の保護者では、「子供のほめ方やしかり方」の回答が一番多くなっている。
- ・ 中学生の保護者は、「携帯電話やインターネットなど子供を取り巻く社会環境のこと」の回答が一番多くなっている。
 → ネットやスマホとの関わり方について保護者が学べるような支援を検討していく。

Q19. 今後参加したり、行ったり、受けたりしたいと思うものはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

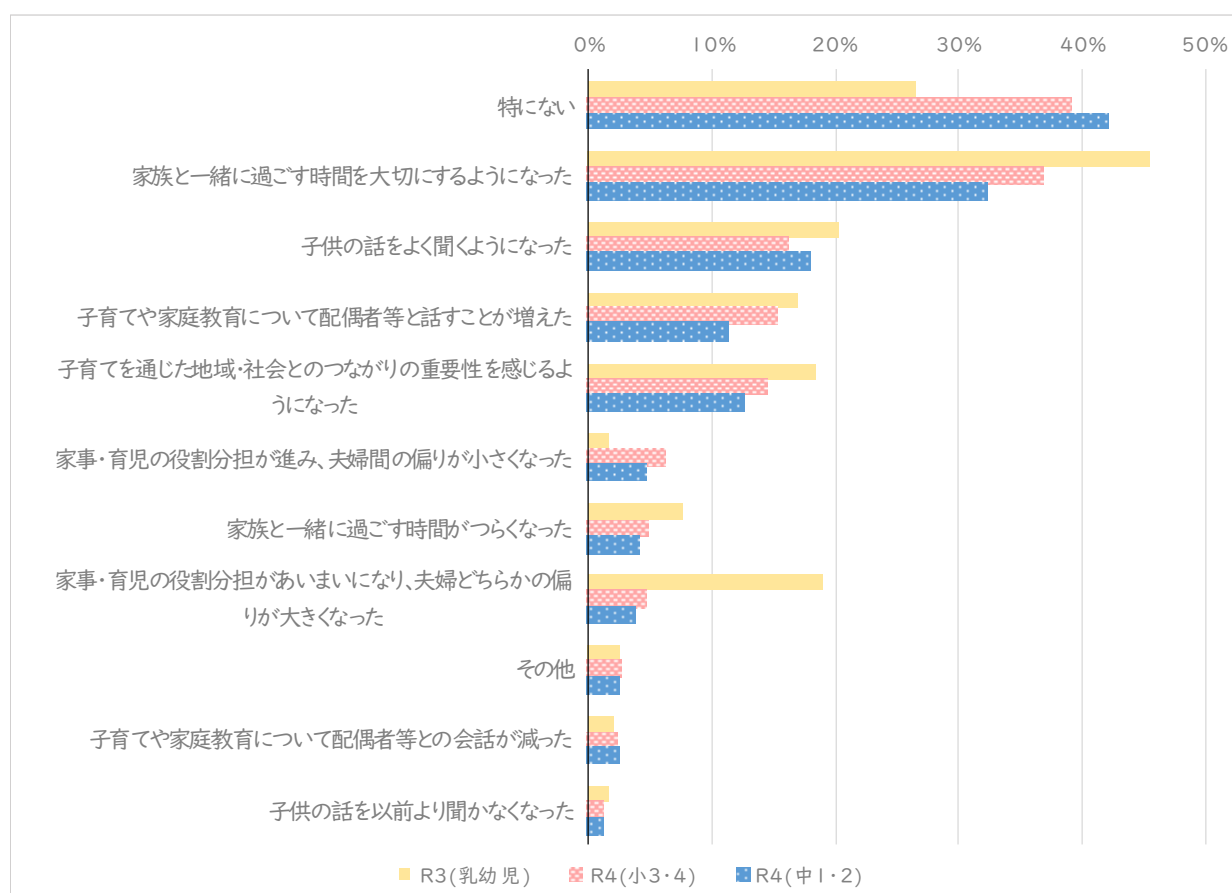
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
インターネットなどからの情報収集	587	34.1%	685	32.1%	720	30.4%
特にない	397	23.1%	639	29.9%	805	34.0%
家庭教育・子育てに関する冊子、リーフレットからの情報収集	360	20.9%	509	23.8%	482	20.3%
子育てに関する学習会や講演会など（集合形式）	372	21.7%	486	22.8%	446	18.8%
親同士の仲間づくりや情報交換（集合形式）	220	12.8%	370	17.3%	349	14.7%
オンライン形式の相談サービスや講座・講演会等	336	19.5%	325	15.2%	375	15.8%
子育てや家庭教育支援の相談や、支援のために家庭に訪問してもらう支援	147	8.5%	174	8.1%	131	5.5%
子育てサロン、子育てサークルなど	251	14.6%	136	6.4%	72	3.0%
その他	13	0.8%	17	0.8%	20	0.8%



- ・約3割の保護者がインターネットからの情報収集をしたいと考えている。また、約2割の保護者が冊子、リーフレットからの情報収集をしたいと回答。
→ 保護者が手軽に家庭教育について学ぶ機会として、インターネット等から情報を発信する工夫をしていく。
- ・「子育てに関する学習会や講演会など（集合形式）」について、約2割の保護者が回答。

Q20. コロナ禍前に比べて、家事・育児への向き合い方などの意識にどのような変化がありましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

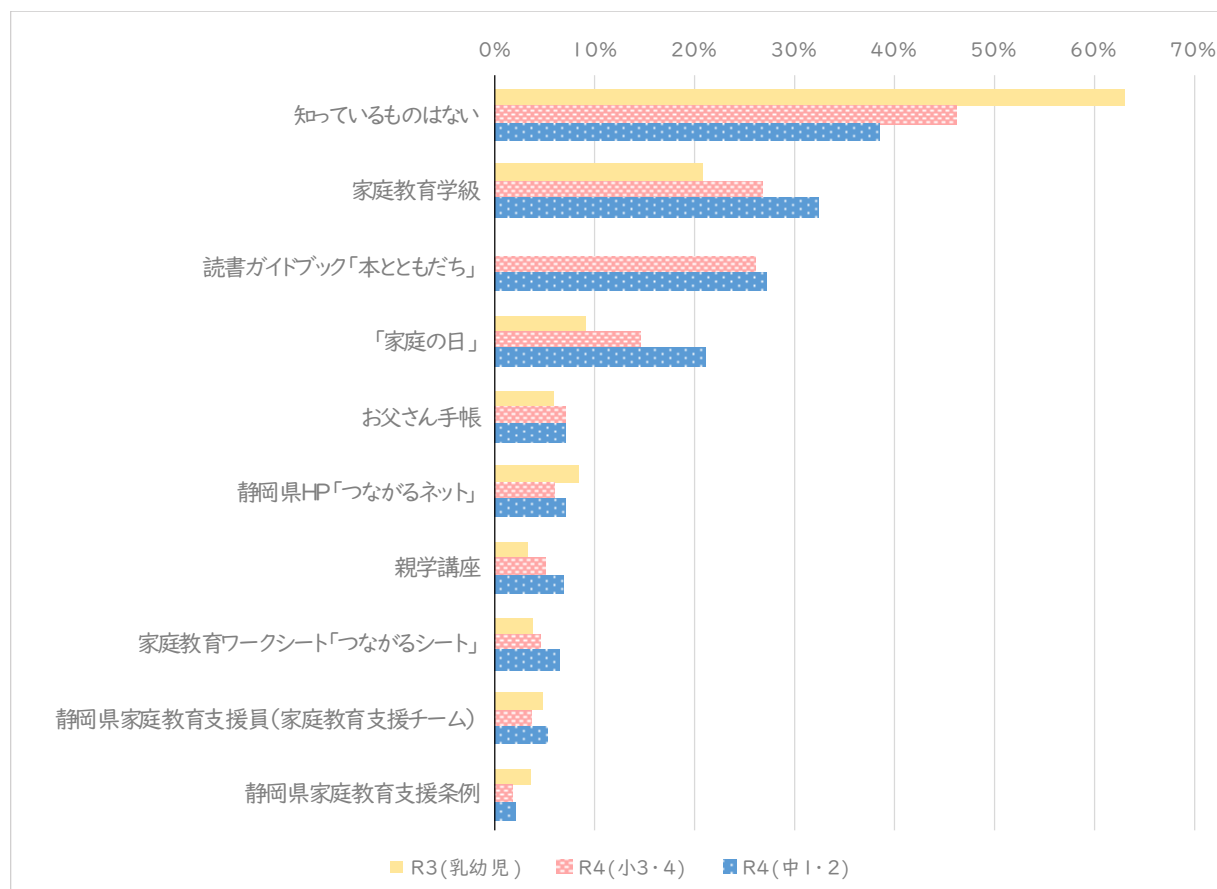
設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
特にない	456	26.5%	836	39.1%	998	42.1%
家族と一緒に過ごす時間を大切にするようになった	783	45.5%	783	36.7%	763	32.2%
子供の話をよく聞くようになった	347	20.2%	347	16.2%	426	18.0%
子育てや家庭教育（しつけ等）について配偶者等と話すことが増えた	293	17.0%	325	15.2%	265	11.2%
子育てを通じた地域・社会とのつながりの重要性を感じるようになった	316	18.4%	308	14.4%	293	12.4%
家事・育児の役割分担が進み、夫婦間の偏りが小さくなった	27	1.6%	130	6.1%	107	4.5%
家族と一緒に過ごす時間がつらくなった	130	7.6%	101	4.7%	90	3.8%
家事・育児の役割分担があいまいになり、夫婦どちらかの偏りが大きくなった	325	18.9%	95	4.4%	84	3.5%
その他	43	2.5%	53	2.5%	55	2.3%
子育てや家庭教育について配偶者等との会話が減った	35	2.0%	48	2.2%	57	2.4%
子供の話を以前より聞かなくなった	26	1.5%	23	1.1%	23	1.0%



- ・家事育児に関し、コロナ禍による意識変化が「特にない」と回答した保護者は乳幼児の保護者26.5%、小学生の保護者39.1%、中学生の保護者42.1%であった。
- 令和3年度と令和4年度でコロナ禍の状況や慣れに変化があったことにより意識変化に差が出たと考えられるが、約6割の保護者が何かしらの意識変化があったことがわかる。

【任意回答】県の家庭教育支援の取組で知っているものをすべて選んでください。

設問項目	乳児・幼児の保護者		小学生の保護者		中学生の保護者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
知っているものはない	915	63.1%	881	46.0%	828	38.5%
家庭教育学級	303	20.9%	512	26.7%	693	32.3%
読書ガイドブック「本とともだち」			494	25.8%	582	27.1%
「家庭の日」	134	9.2%	278	14.5%	449	20.9%
お父さん手帳	87	6.0%	137	7.1%	152	7.1%
静岡県HP「つながるネット」	122	8.4%	111	5.8%	151	7.0%
親学講座	47	3.2%	95	5.0%	148	6.9%
家庭教育ワークシート「つながるシート」	57	3.9%	85	4.4%	137	6.4%
静岡県家庭教育支援員（家庭教育支援チーム）	71	4.9%	69	3.6%	114	5.3%
静岡県家庭教育支援条例	53	3.7%	30	1.6%	44	2.0%



- ・子供の年齢が上がるにつれて、県の取組の認知度が上がっている。
- ・「家庭教育学級」の認知度が一番高く、次いで読書ガイドブック「本と友達」、「家庭の日」となっている。その他の取組については約1割程度の認知度であった。
- それぞれの取組について、県民の認知度が高まるよう普及啓発について検討していく。

令和3・4年度 静岡県家庭教育実態調査結果からわかったこと

【家庭教育における保護者の実態】

- ・家庭教育(しつけ等)ができていないと感じるのは乳幼児をもつ親に多い。
- ・多くの親がしかることよりもほめることの難しさを感じている。
- ・小学生の親は、子どもと接することの必要性を特に感じている。
- ・中学生の親は、スマホやネット等の使い方に不安を感じている。
- ・ほめることがうまくできないと感じている親ほど、悩みや不安を感じやすい傾向。
- ・多くの親が、相談相手として同年代の保護者を希望している。



【今後、必要な支援】

- 1 子どもが幼いほど、家庭教育が不足していると思う親が多い様子です。特に乳幼児をもつ親は、善悪の判断、マナー、ほめ方・しかり方など、しつけの面での不足を感じているようです。福祉部局や幼児教育関係者等と連携して、未就学児の保護者に対する家庭教育支援を推進していきたいと思います。
- 2 小学生の多くの親は、忙しいため余裕をもって子供と接することができないことに不安を感じていました。余裕がない中でどのような接し方を大切にするとよいのか等、家庭教育のポイントを伝えていくような支援が必要と考えます。
- 3 小学生・中学生の親のどちらも「しかるよりもほめることが難しい」と感じています。ほめることの難しさを強く感じる親ほど子育ての不安を感じやすかったことから、今後は、ほめ方について家庭教育支援を考える必要があります。ほめるとは具体的にどういことなのか、わかりやすく啓蒙したり、自分の家庭に合ったほめ方を親自身が見出していくような支援が必要と考えます。
- 4 中学生の親は、他の年代よりもスマホやネット等の使い方に強く不安を感じていました。ネット上の性的被害やいじめに関する不安は小学生の親と変わらないですが、中学生になると長時間化やセキュリティ問題などが加わる様子がうかがわれます。ネット使用が低年齢化している現在、できるだけ早期に家庭内のルールを決めて、問題を予防できるような支援が必要と考えます。
- 5 どの年代においても家族以外の相談相手は保護者仲間が一位でした。コロナ禍でしばらく制約がありましたが、今後も、「つながるシート」を活用した交流会型の家庭教育講座のような保護者同士をつなげていく試みは必要であると考えます。時間がない中でのしつけ方、ネットについて、ほめ方について、性に関することといった、時代のニーズに沿ったテーマのシートを作成していきたいと思います。。

令和3・4年度家庭教育実態調査の分析報告書

令和5年2月10日 静岡県立大学短期大学部

小林佐知子

令和3年度（乳幼児）、令和4年度（小学生・中学生）の調査データの分析結果から、統計的に有意性があり今後の家庭教育支援施策につながると考えられるものを報告いたします。

1. ⑦「家庭教育（しつけ等）の状況について、どのように思っているか」

「ほとんどのことがきちんと教育できていない」「教育できていることもあるが、足りないことが多い」と回答した人を「不足群」、「足りない部分もあるが、教育できていることが多い」「必要なことはきちんと教育できている」と回答した人を「充足群」として子どもの年代別に比較しました。その結果、「不足群」は乳幼児、小学生、中学生をもつ親の順に高いことがわかりました。家庭教育（しつけ等）ができていないと感じるのは乳幼児をもつ親に多いようです。

2. ⑧「子どもを「ほめる」と「しかる」ことでは、どちらの方がうまくできていないか」

※小学生・中学生のデータのみ（乳幼児データはなし）

「ほめることの方がうまくできていない」と回答した人の方が、「しかることのほうがうまくできていない」と回答した人よりも多いことがわかりました。小学生のみ、中学生のみで比較した場合も同じ結果になりました。多くの親がしかることよりもほめることの難しさを感じている様子です。

3. ⑩「子育てをしていて、主にどのような悩みや不安を感じますか」

設問項目のうち「忙しく、余裕をもって子どもに接することができない（A）」「スマホ、ネット、ゲーム等をどのように利用させたらよいか不安である（B）」「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない（C）」の3つについて、年代別の比較をしました。その結果、（A）は小学生をもつ親が、（B）は中学生をもつ親が比較的多いこと、（C）は中学生をもつ親が比較的少ないことがわかりました。小学生の親は、子どもと接することの必要性を特に感じている様子です。他方、子どもが中学生になると、スマホやネット等の使い方に不安を感じる様子です。

なお、（A）～（C）の悩みや不安を感じる親を対象に、ほめるかしかるかどちらがうまくできないか（⑧の設問）を比較してみました。その結果、（A）～（C）すべての設問で「ほめることの方がうまくできない」が有意に高くなりました。つまり、ほめることがうまくできないと感じている親ほど、悩みや不安を感じやすいようです。

4. ⑬「これから家族以外で子育てについて相談するならどのような人がいいですか」

年代別の比較をした結果、「同じ歳の子供をもつ保護者仲間」は差がなく、乳幼児期から中学生までどの年代でも多くの親が希望する相談相手は同年代の保護者だといえます。「学校（保育所・幼稚園・小学校・中学校）の先生」は乳幼児をもつ親が最も多く、「家庭教育（しつけ等）や子供の発達に関する専門的知識を持っている人」は乳幼児をもつ親が最も少ない結果でした。保護者仲間以外では、乳幼

児期は保育者、小学生以降は専門的知識を持った人への相談ニーズが比較的多いようです。

5. ⑩「ネットの危険性に関し、どのようなテーマが知りたいですか」

※小学生・中学生のデータのみ（乳幼児データはなし）

各設問を選んだ人（あてはまると回答した人）を対象に年代別の比較をしたところ、以下の設問は、小学生の親よりも中学生の親の方が多くなりました。

- ・「長時間化などネットの過度の利用に関する問題」
- ・「個人情報流出などプライバシー保護に関する問題」
- ・「ウイルス対策や不正アクセス対策などセキュリティに関する問題」

これらの問題は、子供の年齢が上がるとともに、危険性が高まっているかもしれません。

6. ⑪「家庭教育（しつけ等）について主にどのような情報を得たり、学習したりしたいですか」

各設問について年代別の比較をした結果、「子供のほめ方やしかり方」や「善悪の判断、マナーなどについてのしつけ方」は乳幼児をもつ親が最も多く、次に小学生をもつ親となりました。「携帯電話やインターネットなど子供を取り巻く社会環境のこと」は中学生をもつ親が最多でした。「子供の性に関すること」は小学生をもつ親が最多でした。

<考察>

1. 子どもが幼いほど、家庭教育が不足していると思う親が多い様子です。特に乳幼児をもつ親は、善悪の判断、マナー、ほめ方・しかり方など、しつけの面での不足を感じているようです。
2. 小学生の多くの親は、忙しいため余裕をもって子供と接することができないことに不安を感じていました。余裕がない中でどのような接し方を大切にするとよいのか等、家庭教育のポイントを伝えていくような支援が必要と考えます。
3. 小学生・中学生の親のどちらも「しかるよりもほめることが難しい」と感じています。ほめることの難しさを強く感じる親ほど子育ての不安を感じやすかったことから、今後はほめ方について家庭教育支援を行うことは有益と考えます。“ほめる＝言葉で賞賛する”と思っている親がいるかもしれません。ほめるとは具体的にどういうことなのか、わかりやすく啓蒙したり、自分の家庭に合ったほめ方を親自身が見出していくような支援ができるとよいように思います。
4. 中学生の親は、他の年代よりもスマホやネット等の使い方に強く不安を感じていました。ネット上の性的被害やいじめに関する不安は小学生の親と変わらないのですが、中学生になると長時間化やセキュリティ問題などが加わる様子がうかがわれます（問題が増える）。ネット使用が低年齢化している現在、できるだけ早期に家庭内のルールを決めて、問題を予防できるような支援が必要かと考えます。
5. どの年代においても家族以外の相談相手は保護者仲間が一位でした。コロナ禍でしばらく制約がありましたでしたが、「つながるシート」のような保護者同士をつなげていく試みは意義があると考えます。時間がない中でしつけ方、ネットについて、ほめ方について、性に関することといった、現在のニーズに沿ったテーマで展開していくことは有効と考えます。

以上

<分析結果> 分析には IBM SPSS Statistics を使いました。

結果1 設問⑦について、2 値変数（充足群・不足群）× 3 値変数（乳幼児・小学生・中学生）のクロス集計での多重比較を行いました。

しつけ等の状況と校種のクロス表

		校種			合計
		小学生	中学生	乳幼児	
しつけ等の状況 充足群	度数	1485 ^a	1727 ^b	1085 ^c	4297
	しつけ等の状況の%	34.6%	40.2%	25.3%	100.0%
	校種の%	69.5%	72.9%	63.0%	69.0%
不足群	度数	651 ^a	642 ^b	636 ^c	1929
	しつけ等の状況の%	33.7%	33.3%	33.0%	100.0%
	校種の%	30.5%	27.1%	37.0%	31.0%
合計	度数	2136	2369	1721	6226
	しつけ等の状況の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
	校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サブスクリプト文字は、列の比率が .05 レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

小文字のアルファベツトが異なると有意に差があることを示します。

不足群は、乳幼児>小学生>中学生の順に多いようです。

結果2 設問⑧について、「しかる」ことがうまくできていない群（2008名）と「ほめる」ことがうまくできていない群（2497名）とでカイ2乗検定を行いました。

その結果、カイ2乗値は 53.08、自由度 1、0.1%水準で有意でした。

= 「ほめる」ことのほうがうまくできない親の方が多いという結果でした。

結果3 (1) 設問⑩の上位3つの設問項目について、2 値変数（悩みや不安を感じる・悩みや不安を感じない）× 3 値変数（乳幼児・小学生・中学生）のクロス集計での多重比較を行いました。

※表は差があった結果のみ示します。

「忙しく、余裕をもって子供に接することができない」

1：悩みや不安を感じる 0：悩みや不安を感じない

悩みや不安回答1と校種のクロス表

		校種			合計
		小学生	中学生	乳幼児	
悩みや不安回答1 0	度数	1081 ^a	1461 ^b	963 ^c	3505
	悩みや不安回答1の%	30.8%	41.7%	27.5%	100.0%
	校種の%	50.6%	61.7%	56.0%	56.3%
1	度数	1055 ^a	908 ^b	758 ^c	2721
	悩みや不安回答1の%	38.8%	33.4%	27.9%	100.0%
	校種の%	49.4%	38.3%	44.0%	43.7%
合計	度数	2136	2369	1721	6226
	悩みや不安回答1の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
	校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サブスクリプト文字は、列の比率が .05 レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

小文字のアルファベツトが異なると有意に差があることを示します。

この設問の悩みや不安を感じる人は、小学生>乳幼児>中学生でした。

「スマホ、ネット、ゲーム等をどのように利用させたらよいか不安である」

1：悩みや不安を感じる 0：悩みや不安を感じない

悩みや不安回答2 と 校種のクロス表

		校種			合計
		小学生	中学生	乳幼児	
悩みや不安回答2 .00	度数	1185a	1095b	1102c	3382
	悩みや不安回答2 の %	35.0%	32.4%	32.6%	100.0%
	校種の %	55.5%	46.2%	64.0%	54.3%
1.00	度数	951a	1274b	619c	2844
	悩みや不安回答2 の %	33.4%	44.8%	21.8%	100.0%
	校種の %	44.5%	53.8%	36.0%	45.7%
合計	度数	2136	2369	1721	6226
	悩みや不安回答2 の %	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
	校種の %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サブスクリプト文字は、列の比率が .05 レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

この設問の悩みや不安を感じる人は、中学生>小学生>乳幼児でした。

「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」

→差はありませんでした。

結果3（2）設問⑪の上位3つの設問項目について、「不安や悩みを感じる」親を選択し、設問⑧「ほめることとしかることのどちらが難しいと感じるか」（「しかる」ことのほうがうまくできていない群・「ほめる」ことのほうがうまくできていない群）によるカイ2乗検定を行いました。

※乳幼児のデータはありません（小学生・中学生をもつ親のみ）

A 「忙しく、余裕をもって子供に接することができない」

- ・「しかる」ことのほうがうまくできていない群で 787 名
- ・「ほめる」ことのほうがうまくできていない群で 1176 名

結果は、カイ2乗値 77.09、自由度 1、0.1%水準で有意でした。

B 「スマホ、ネット、ゲーム等をどのように利用させたらよいか不安である」

- ・「しかる」ことのほうがうまくできていない群で 983 名
- ・「ほめる」ことのほうがうまくできていない群で 1176 名

結果は、カイ2乗値 30.15、自由度 1、0.1%水準で有意でした。

C 「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」

- ・「しかる」ことのほうがうまくできていない群で 747 名
- ・「ほめる」ことのほうがうまくできていない群で 1112 名

結果は、カイ2乗値 71.67、自由度 1、0.1%水準で有意でした。

「ほめる」ことのほうがうまくできないと感じている親は、「しかる」ことのほうがうまくできないと感じている親よりも、上記のような不安を感じているようです。

結果4 設問⑬の上位4つの相談先について、2値変数（この人に相談したいかどうか）×3値変数（乳幼児・小学生・中学生）のクロス集計での多重比較を行いました。

相談したいと回答：1 相談したいと回答なし：0

※表は差があった結果のみ示します。

「同じ年の子供を持つ保護者仲間」 →差はありませんでした

「学校（保育所・幼稚園・小学校・中学校）の先生」

相談したい人回答1と校種のクロス表

		校種			合計
		小学生	中学生	乳幼児	
相談したい人回答1 .00	度数	1142 ^a	1459 ^b	573 ^c	3174
	相談したい人回答1の%	36.0%	46.0%	18.1%	100.0%
	校種の%	53.5%	61.6%	33.3%	51.0%
1.00	度数	994 ^a	910 ^b	1148 ^c	3052
	相談したい人回答1の%	32.6%	29.8%	37.6%	100.0%
	校種の%	46.5%	38.4%	66.7%	49.0%
合計	度数	2136	2369	1721	6226
	相談したい人回答1の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
	校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

小文字のアルファベット
が異なると有意に差が
あることを示します。

各サプスクリプト文字は、列の比率が.05レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

乳幼児>小学生>中学生の順に多いようです。

「異学年（上の学年など）の子供を持つ保護者仲間」

相談したい人回答3と校種のクロス表

		校種			合計
		小学生	中学生	乳幼児	
相談したい人回答3 .00	度数	1208 ^a	1298 ^a	1145 ^b	3651
	相談したい人回答3の%	33.1%	35.6%	31.4%	100.0%
	校種の%	56.6%	54.8%	66.5%	58.6%
1.00	度数	928 ^a	1071 ^a	576 ^b	2575
	相談したい人回答3の%	36.0%	41.6%	22.4%	100.0%
	校種の%	43.4%	45.2%	33.5%	41.4%
合計	度数	2136	2369	1721	6226
	相談したい人回答3の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
	校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サプスクリプト文字は、列の比率が.05レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

乳幼児<小学生=中学生でした。

家庭教育（しつけ等）や子供の発達に関する専門的知識を持っている人

相談したい人回答7と校種のクロス表

		校種			合計
		小学生	中学生	乳幼児	
相談したい人回答7	.00 度数	1272a	1491a	1252b	4015
	相談したい人回答7の%	31.7%	37.1%	31.2%	100.0%
	校種の%	59.6%	62.9%	72.7%	64.5%
1.00	度数	864a	878a	469b	2211
	相談したい人回答7の%	39.1%	39.7%	21.2%	100.0%
	校種の%	40.4%	37.1%	27.3%	35.5%
合計	度数	2136	2369	1721	6226
	相談したい人回答7の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
	校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サブスクリプト文字は、列の比率が.05レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

乳幼児<小学生=中学生でした。

結果5 設問⑩について、「知りたい」と回答した人を選択し、小学生・中学生で差があるか、カイ2乗検定を行いました。※乳幼児のデータはありません（小学生・中学生をもつ親のみ）

「誹謗中傷などネット上のコミュニケーションに関する問題」 → 差はありませんでした

「出会い系サイトやSNS等に起因する児童の性的被害に関する問題」 → 差はありませんでした

「長時間化などネットの角の利用に関する問題」

・小学生で1248名 ・中学生で1442名

結果は、カイ2乗値13.99、自由度1、0.1%水準で有意でした。→ 小学生<中学生

「個人情報流出などプライバシー保護に関する問題」

・小学生で1186名 ・中学生で1339名

結果は、カイ2乗値9.27、自由度1、1%水準で有意でした。→ 小学生<中学生

「薬物などの違法情報やアダルトサイトなど青少年にとって不適切なサイトに関する問題」

→ 差はありませんでした

「ウイルス対策や不正アクセス対策などセキュリティに関する問題」

・小学生で1428名 ・中学生で1585名

結果は、カイ2乗値8.18、自由度1、1%水準で有意でした。→ 小学生<中学生

「高額課金など電子商取引に関する問題」 → 差はありませんでした

結果6 設問⑱の上位4つについて、2値変数（情報を得たいかどうか）×3値変数（乳幼児・小学生・中学生）のクロス集計での多重比較を行いました。

情報を得たいと回答：1 情報を得たいという回答なし：0

※表は差があった結果のみ示します。

「子供の褒め方やしかり方」について

欲しい情報回答1と校種のクロス表

		校種			合計	
		小学生	中学生	乳幼児		
欲しい情報回答1	.00	度数	1104 ^a	1459 ^b	674 ^c	3237
		欲しい情報回答1の%	34.1%	45.1%	20.8%	100.0%
		校種の%	51.7%	61.6%	39.2%	52.0%
1.00		度数	1032 ^a	910 ^b	1047 ^c	2989
		欲しい情報回答1の%	34.5%	30.4%	35.0%	100.0%
		校種の%	48.3%	38.4%	60.8%	48.0%
合計		度数	2136	2369	1721	6226
		欲しい情報回答1の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
		校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サブスクリプト文字は、列の比率が.05レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

乳幼児>小学生>中学生でした。

「携帯電話やインターネットなど子供を取り巻く社会環境のこと」

欲しい情報回答2と校種のクロス表

		校種			合計	
		小学生	中学生	乳幼児		
欲しい情報回答2	.00	度数	1163 ^a	1069 ^b	1001 ^a	3233
		欲しい情報回答2の%	36.0%	33.1%	31.0%	100.0%
		校種の%	54.4%	45.1%	58.2%	51.9%
1.00		度数	973 ^a	1300 ^b	720 ^a	2993
		欲しい情報回答2の%	32.5%	43.4%	24.1%	100.0%
		校種の%	45.6%	54.9%	41.8%	48.1%
合計		度数	2136	2369	1721	6226
		欲しい情報回答2の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
		校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サブスクリプト文字は、列の比率が.05レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

中学生>小学生=乳幼児でした。

「善悪の判断、マナーなどについてのしつけ方」

欲しい情報回答3と校種のクロス表

		校種			合計	
		小学生	中学生	乳幼児		
欲しい情報回答3	.00	度数	1302 ^a	1724 ^b	939 ^c	3965
		欲しい情報回答3の%	32.8%	43.5%	23.7%	100.0%
		校種の%	61.0%	72.8%	54.6%	63.7%
	1.00	度数	834 ^a	645 ^b	782 ^c	2261
		欲しい情報回答3の%	36.9%	28.5%	34.6%	100.0%
		校種の%	39.0%	27.2%	45.4%	36.3%
合計		度数	2136	2369	1721	6226
		欲しい情報回答3の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
		校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サブスクリプト文字は、列の比率が.05レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

乳幼児>小学生>中学生でした。

「子供の姓に関すること」

欲しい情報回答4と校種のクロス表

		校種			合計	
		小学生	中学生	乳幼児		
欲しい情報回答4	.00	度数	1406 ^a	1772 ^b	1312 ^b	4490
		欲しい情報回答4の%	31.3%	39.5%	29.2%	100.0%
		校種の%	65.8%	74.8%	76.2%	72.1%
	1.00	度数	730 ^a	597 ^b	409 ^b	1736
		欲しい情報回答4の%	42.1%	34.4%	23.6%	100.0%
		校種の%	34.2%	25.2%	23.8%	27.9%
合計		度数	2136	2369	1721	6226
		欲しい情報回答4の%	34.3%	38.1%	27.6%	100.0%
		校種の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各サブスクリプト文字は、列の比率が.05レベルでお互いに有意差がない校種のカテゴリのサブセットを示します。

小学生>中学生=乳幼児でした。

令和 5 年度入学選考の結果の概要

(特別支援教育課)

1 高等部入学者選考結果

R3 年度

募集定員	志願者数	受検者数	合格者数	再募集合格
856 人	736 人	734 人	690 人	0 人

R4 年度 (この学年は多かった)

募集定員	志願者数	受検者数	合格者数	再募集合格
925 人	786 人	786 人	744 人	1 人

R5 年度

募集定員	志願者数	受検者数	合格者数	再募集合格
850 人	679 人	679 人	655 人	1 人

- ・ 本校と分校の併願があるため、志願者数及び受験者数は重複してカウント。
- ・ 分校以外の不合格者は、なし。
- ・ 合格前辞退者 なし
- ・ 受験前辞退者 なし
- ・ 合格発表後辞退者 3 人 (伊豆の国、城北分校、浜松みをつくし)
- ・ 再募集 1 人 (浜松)

2 高等部専攻科入学者選考結果

R3 年度

募集定員	志願者数	受検者数	合格者数	再募集合格
16 人	6 人	6 人	6 人	0 人

R4 年度

募集定員	志願者数	受検者数	合格者数	再募集合格
16 人	4 人	4 人	4 人	0 人

R5 年度

募集定員	志願者数	受検者数	合格者数	再募集合格
16 人	1 人	1 人	1 人	0 人

令和5年度特別支援学校高等部及び高等部専攻科入学者選考結果

1 高等部入学者選考結果

障害種	学校名	学科	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	再募集数 (内数)	備考
視覚障害	沼津視覚	保健理療科	8	1	1	1	0	
	静岡視覚	保健理療科	8	1	1	1	0	
	浜松視覚	普通科	8	1	1	1	0	
	視覚計		24	3	3	3	0	
聴覚障害	沼津聴覚	特進技能科	8	2	2	2	0	
		生産応用科	8	1	1	1	0	
	聴覚計		16	3	3	3	0	
知的障害	伊豆の国	普通科	21	19	19	19	0	合格後辞退1
	伊豆松崎	普通科	9	4	4	4	0	
	御殿場	普通科	24	21	21	21	0	
	沼津	普通科	30	28	28	28	0	
	伊豆田方	普通科	18	11	11	11	0	
	愛鷹	普通科	18	17	17	17	0	
	東部 伊豆高原	普通科	24	15	15	15	0	
	富士	普通科	45	41	41	41	0	
	富士宮	普通科	27	18	18	18	0	
	富士東	普通科	18	15	15	15	0	
	清水	普通科	30	28	28	28	0	
	静岡北	普通科	48	49	49	49	0	
	南の丘	普通科	27	17	17	17	0	
	藤枝	普通科	51	44	44	44	0	
	焼津	普通科	18	25	25	18	0	不合格7
	吉田	普通科	33	26	26	26	0	
	掛川	普通科	24	18	17	17	0	
	御前崎	普通科	18	12	12	12	0	
	袋井	普通科	51	35	35	35	0	
	磐田見付	普通科	18	25	25	18	0	不合格7
	浜松	普通科	57	44	45	45	1	
	城北	普通科	18	28	28	18	0	不合格10合後辞1
	浜北	普通科	33	29	29	29	0	
	浜松みをつくし	普通科	48	38	38	38	0	合格後辞退1
	浜名	普通科	18	15	15	15	0	
		知的計		726	622	622	598	1
肢体不自由	東部	普通科	24	11	11	11	0	
	中央	普通科	30	20	20	20	0	
	西部	普通科	18	9	9	9	0	
	肢体不自由計		72	40	40	40	0	
病弱	天竜	普通科	12	11	11	11	0	
	病弱計		12	11	11	11	0	
	特別支援学校計		850	679	679	655	1	

2 高等部専攻科入学者選考結果

障害種	学校名	学科・学級	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	再募集数 (内数)	備考
視覚障害	浜松視覚	理療科	8	0	0	0	0	
		保健理療科	8	1	1	1	0	
	視覚計		16	1	1	1	0	
	特別支援学校計		16	1	1	1	0	